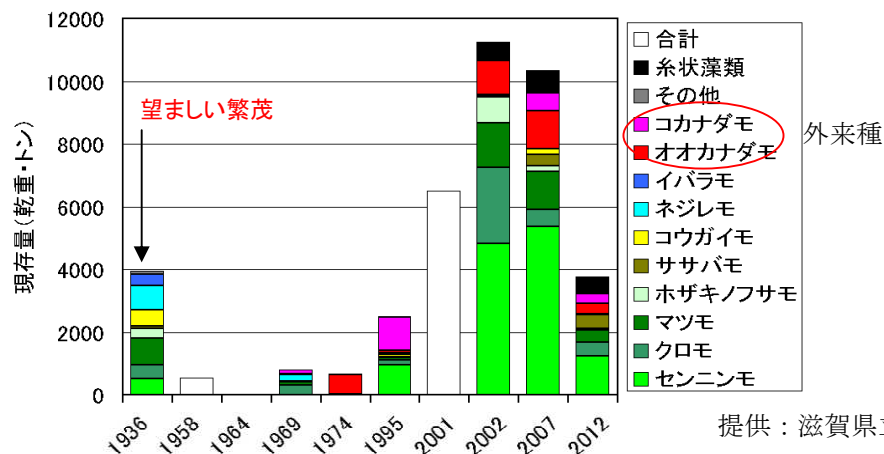


南湖の水草対策の取り組みについて

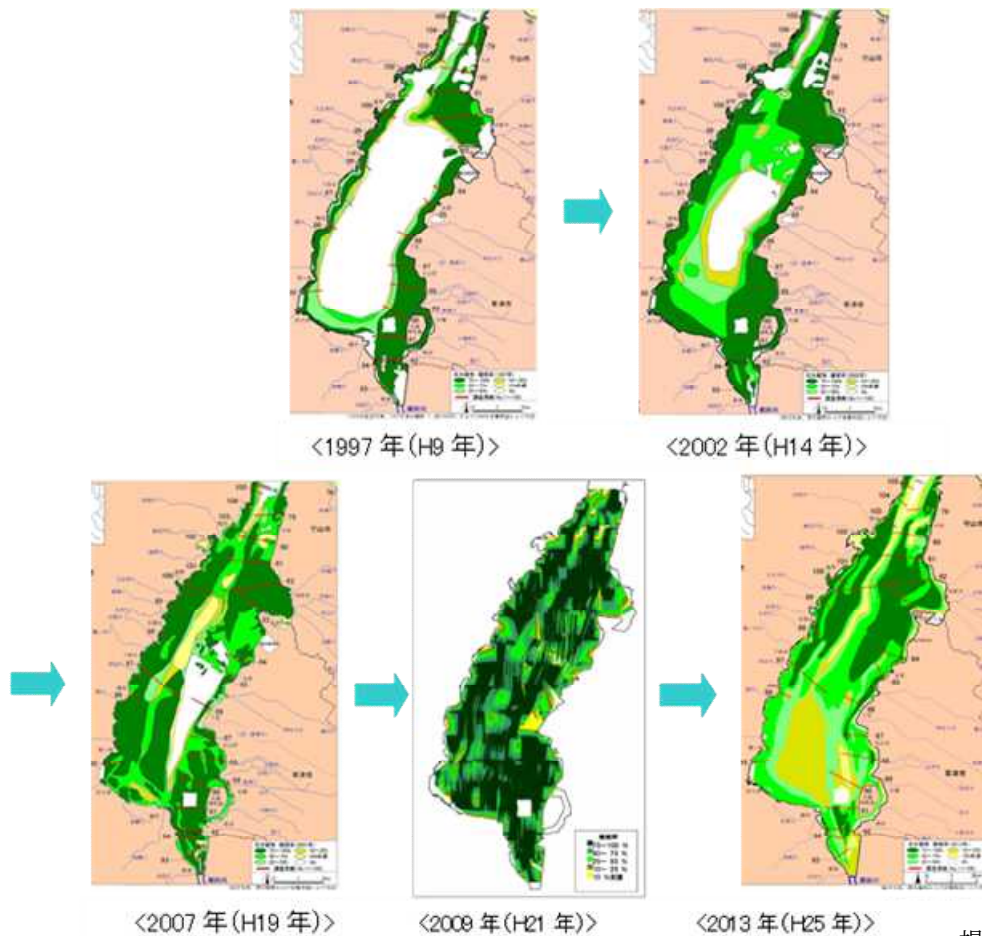
南湖の現状

南湖の水草は、平成6年の大濁水をきっかけに急激に増えはじめ、最近では夏になると湖底の約9割を水草が覆う異常な状態になっている。

適度な水草繁茂は、魚類等の産卵や発育、生育の場となり、水質の浄化にも寄与するなど、重要な役割を担っている。しかし、現在の南湖における水草の大量繁茂は、湖流の停滞による水質の悪化や底層の低酸素化、湖底のヘドロ化など従来の自然環境や生態系に大きな影響を与えるとともに、漁業や船舶航行の障害、腐敗に伴う臭気の発生など生活環境にも様々な支障をきたし、深刻な状態が続いている。



提供：滋賀県立琵琶湖博物館



提供：水資源機構

南湖の水草繁茂の経年変化

水草対策

○水草の根こそぎ除去 (平成 25 年度の実績 992ha、2,941t)

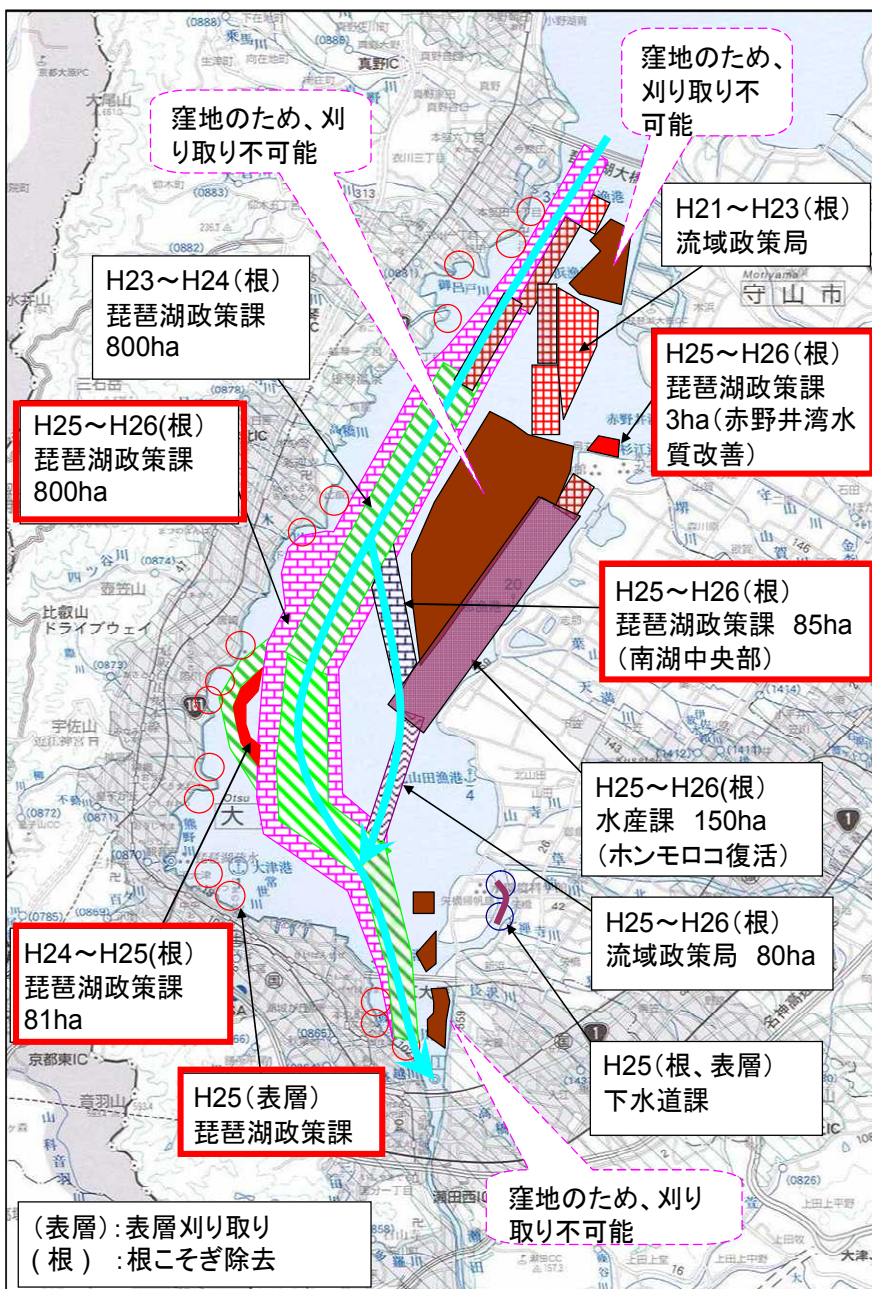
水草の大量繁茂により、南湖で停滞している湖流を回復させるための水草の根こそぎ除去を実施し、湖底の低酸素状態や水温、水質などの湖底環境を改善する。

○表層部の水草刈取り (平成 25 年度の実績 30ha、1,200 t)

夏に広範囲で大量繁茂する水草による航行障害、腐敗に伴う悪臭の発生など生活環境への悪影響を早期に解決するために、機動性に優れた刈り取り専用船による表層部(水深 1.5m)の刈り取りを行う。

○人力水草刈取り (平成 25 年度の実績 88t)

機械刈取が困難な水深が浅い所では、人力で刈取りを行う。



平成 25 年度 水草対策位置図



(表層刈り取り)



(人力による刈取り)